

大阪・関西万博関西パビリオン
和歌山ゾーン
出展基本計画

出展基本計画 目次

I. 出展概要

1. 2025年日本国際博覧会と関西パビリオンの概要
2. 出展のテーマ・方針
3. 和歌山ゾーンの構成

II. 展示計画

1. 展示概要
2. 空間構成案
3. 展示構成要素
4. 展示コンテンツイメージ
5. ユニバーサルデザイン / 多言語対応の方針

III. 来場前後の誘導施策 / 運営計画

1. 広報・誘引計画 / 運営計画

IV. 万博終了後の事後活用の可能性検討

1. 万博終了後のレガシー活用の可能性検討

V. その他

1. 推進スケジュール
2. 和歌山ゾーンと連携した施策展開イメージ

I. 出展概要

1-1) 2025年日本国際博覧会と関西パビリオンの概要

2025年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）開催概要

開催期間： 2025年4月13日（日）～ 10月13日（月） / 184日間
会 場： 夢洲（大阪市臨海部）
来場者数： 約 2,820万人

テーマ：

いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives)

Saving Lives (いのちを救う) / Empowering Lives (いのちに力を与える) / Connecting Lives (いのちをつなぐ)

コンセプト：

People's Living Lab (未来社会の実験場)

(公社) 2025年日本国際博覧会協会 公式WEBサイト：<https://www.expo2025.or.jp/>



提供：2025年日本国際博覧会協会

関西パビリオン概要

和歌山県は、関西広域連合が大阪・関西万博に出展する関西パビリオンの中に出展する。関西パビリオンの概要は以下の通り。

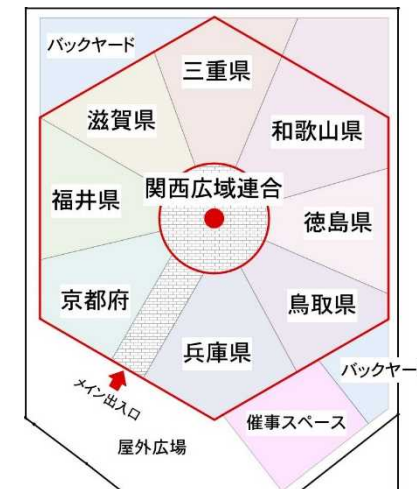
テーマ：

いのち輝く関西悠久の歴史と現在

参加府県： 滋賀県 / 京都府 / 兵庫県 / 奈良県 / 和歌山県 /
鳥取県 / 徳島県 / 福井県 / 三重県

面積： 敷地 2,453㎡（建築面積 1,653㎡）
※大阪パビリオンの隣接敷地

関西広域連合 公式WEBサイト：<https://future.kouiki-kansai.jp/>



ゾーン	延床面積
大関西広場	166㎡
京都府ゾーン	126㎡
福井県ゾーン	126㎡
滋賀県ゾーン	126㎡
三重県ゾーン	160㎡
和歌山県ゾーン	251㎡
徳島県ゾーン	126㎡
鳥取県ゾーン	126㎡
兵庫県ゾーン	160㎡

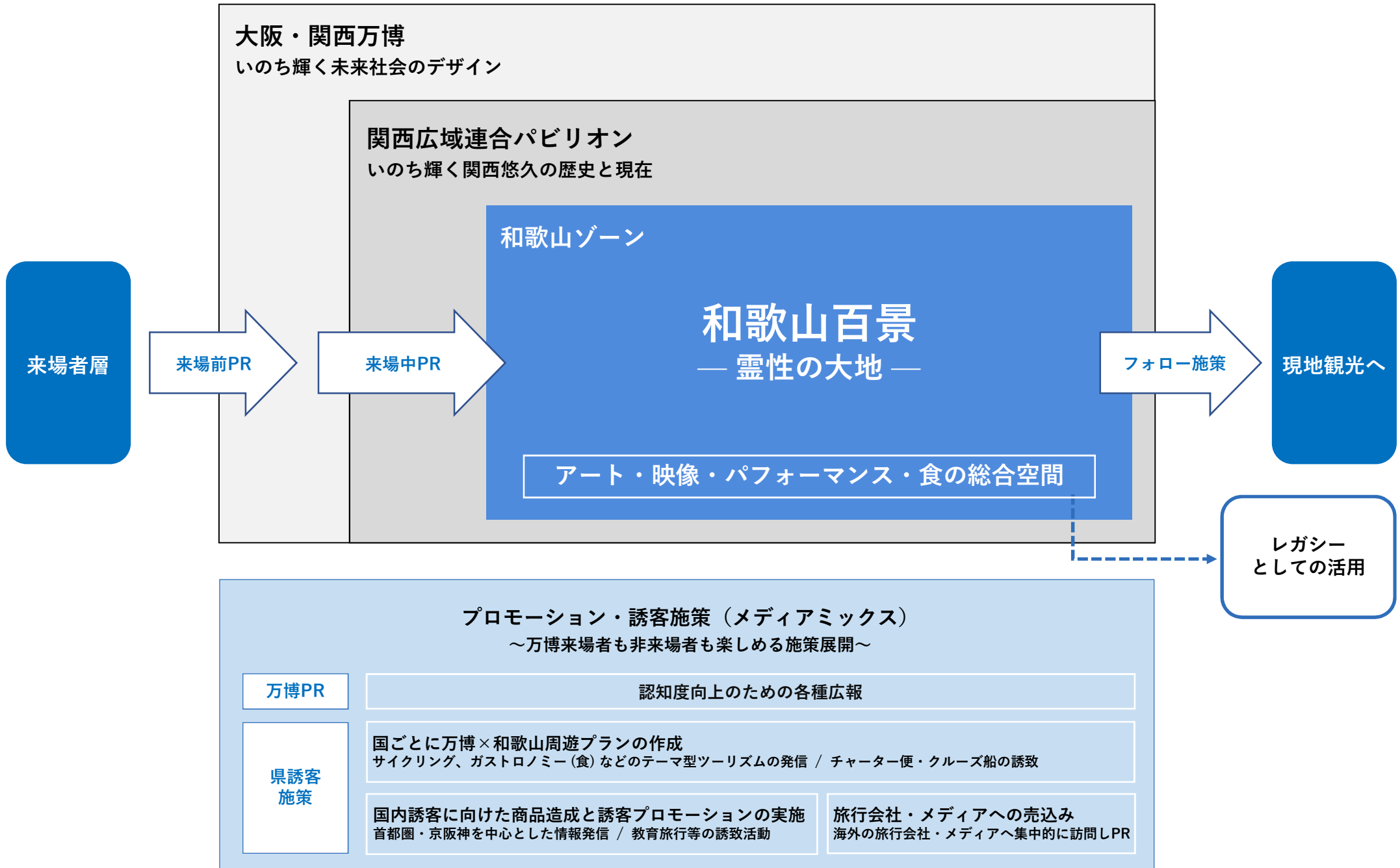
出展：大阪・関西万博基本計画書 / 関西広域連合資料より

1-2) 出展のテーマ・方針

テーマ	<h1>和歌山百景</h1> <p>— 靈性の大地 —</p>
コンセプト	<h2>“上質” のつまった和歌山</h2>
出展の意義	<p>和歌山県の紀伊山地は、神話の時代から神々が鎮まる特別な場所とされ、寛容の精神を以て、宗教や身分、考え方の違いに関わらず、全てを受け入れ、融合・共存させてきました。</p> <p>その精神文化は、多様な価値観を尊重し合う「持続可能な世界」を実現する日本的モデルとなり得ると考え、これを展示によって表現します。</p>
目標	<h3>和歌山の上質な魅力を肌で感じてもらい、地域の産業や食をはじめ、現地観光への関心を醸成</h3> <p>展示では「上質な和歌山」にこだわり、和歌山県のもつ精神世界と実存世界の様々な表情を「和歌山百景」として、非日常的でアーティスティックな空間の中で、美しく表現します。</p> <p>和歌山の魅力を「説明する」のではなく、アートの中に「感じてもらう」ことで、現地に行ってみたいという関心を醸成し、観光誘致へと繋げます。</p> <h3>県民が、我がまち和歌山に誇りを持てるような展示</h3> <p>普段の生活では見過ごされている和歌山の「豊かさ」と「深さ」を、上質な空間で表現することで、県民が和歌山の魅力に改めて気づき、我がまちに誇りと自信を持てるような展示を目指します。</p>
集客目標	30万人

1-3) 和歌山ゾーンの構成

【和歌山ゾーンの全体施策】



II. 展示計画

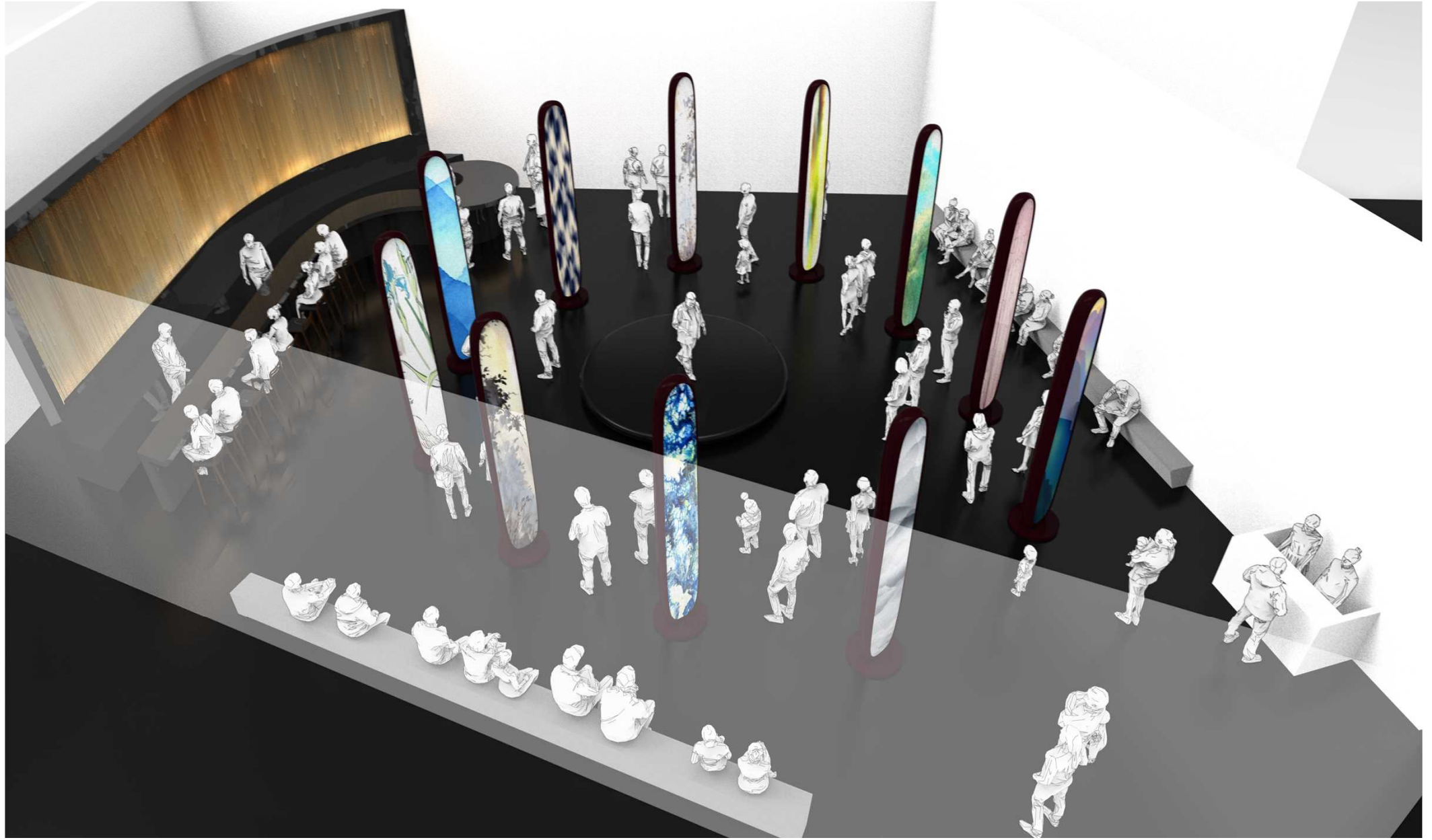
2-1) 展示概要



和歌山百景 — 靈性の大地 —

「日本の精神文化の源流」「蘇りの聖地」「寛容の精神」の地である和歌山を上質でアーティスティックな空間の中に表現する。

2-2) 空間構成案



紀伊山地の巨木も彷彿とさせる、そびえ立つ映像のタワー「トーテム」を環状に配置した空間構成で、神聖な空間を演出します。中央ステージでは「和歌山の今を生きる人」に焦点を当て、多様なパフォーマンスを発信します。飲食可能なエリアとしてカウンターバーを設置し、豊かな和歌山の食の魅力も届けます。

2-3) 展示構成要素：映像タワー「トーテム」



そびえ立つ映像のタワー「トーテム」は、高さ4m。精霊をイメージし、丸みを帯びた形状です。熊野や高野山など、和歌山の聖地に立ち並ぶ巨木も彷彿とさせます。

和歌山県各地の美しい自然風景や、神話と歴史に因んだシーンなど、「和歌山百景」をアートとして表現し、映像化します。アートの映像は、写実とはまた違った魅力で想像を促し、深淵に和歌山の魅力を伝えます。

万博終了後、県内の各施設へ移転・展示も検討します。

2-3) 展示構成要素：中央ステージ



映像のタワーによって囲まれた、神殿や仏閣を思わせる空間の中央に配置されたパフォーマンスのためのステージ。和歌山の今を生きる人たちにスポットライトを当て、トーテムの映像群と連携しながら、様々なプログラムを展開します。

和歌山に根付く伝統芸能の数々や、各市町村の誇るコンテンツ、また県内産業の魅力を、それを実践する「人」の姿を通して、発信します。

また、パフォーマンス演目が行われなかった時間帯は、このステージは来場者のためのベンチとしても使用することを想定しています。

2-3) 展示構成要素：カウンターバー



和歌山の上質な食文化を楽しんでいただくために、カウンターバーを設置します。

「美味しい」だけでなく、芸術的な演出を含めて、上質な「食のアート」に感動していただけるようなものをご提供します。

バーエリアの壁面には、落ち着いた空間を演出し、視覚からも和歌山の食を楽しんでいただけるようにデザインされた、装飾ディスプレイを設置します。飲食エリアとして、展示から区別してしまうのではなく、映像やパフォーマンスと食が、一つの空間の中で一体となる構成を目指します。

2-4) 展示コンテンツイメージ (映像 & パフォーマンス)



和歌祭



葛城修験



高野山



道成寺絵とき



和歌山のフルーツ



醤油醸造「最初の一滴」



熊野三山



上質な温泉



南紀熊野ジオパーク

2-5) ユニバーサルデザイン / 多言語対応の方針

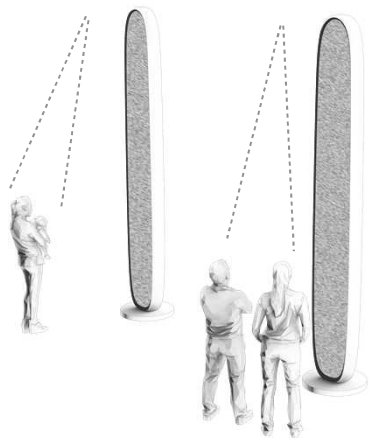
ユニバーサルデザイン

誰もが楽しめるユニバーサルデザインに配慮した計画のもと、さまざまなニーズを吸収し、全ての人々が、それぞれの方法で楽しめるような展示を目指します。

空間構成では、動線上に余白を十分に取り、車椅子や足の不自由な方でも回遊しやすい工夫を。

単にスクリーンの映像でなく、物体を伴う映像タワーとすることで、目の不自由な方でも触って感じていただけるように。

超指向性スピーカーを活用し、空間の色々な場所で、そこに応じた音が聞こえてくるような工夫を検討。目の不自由な方でも、空間内の回遊を楽しめるようなデザインを目指します。



多言語対応

世界各国からの来場者をおもてなしするため、言語のハードルを下げる工夫を検討します。

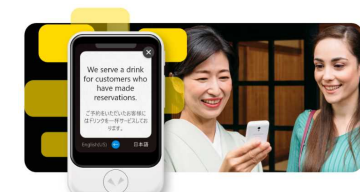
展示は、言語による制約を最小限にし、多くの来場者が楽しめるコンテンツとして構築します。

コンシェルジュ・県特産品PRなどの情報提供に関しては、翻訳システムなどの活用も含め、幅広く、最適な対応方法を検討します。

WEBサイトに関しても多言語対応を前提とします。

翻訳システムを搭載した機器についてはVoiceTra等、万博全体とも調整していきます。

【参考】万博開催時には、文脈・話者の意図等を補う同時通訳が実現予定
(総務省 グローバル・コミュニケーション計画2025 (2020年3月))



(イメージ)

Ⅲ. 来場前後の誘導施策 / 運営計画

3-1) 広報・誘引計画 / 運営計画

広報・誘引計画

事前の広報

万博全体での事前告知など、世間で注目されるタイミングで、和歌山ゾーンのテーマ・コンセプトや施策内容を計画的にWEB広告などを使って告知し、事前の期待感を高めます。

万博開催に合わせた旅行プランの告知も織り交ぜ、万博開催期間に和歌山周遊計画が旅行者の選択肢に入るべく働きかけ、期間中・期間後の和歌山観光活性化に繋がります。

期中の広報

関西パビリオン全体の魅力はもとより、和歌山ゾーン独自の魅力発信にも留意し、和歌山ゾーンを目指して来場していただける広報活動に努めます。

企画展示の更新やイベント等により、再度来館しても楽しめる内容であることをWEBサイトやSNS等の媒体によって告知し続け、和歌山ゾーンへの再来訪を促します。

関西パビリオン内の誘引

関西パビリオンを来訪した方は全ての府県ゾーンに順番に足を踏み入ると想定されますが、より長時間の滞在をしていただくことや、訪れるブース数に限りがある方に和歌山ゾーンを選んでいただけるよう、展示の外観に工夫を凝らします。

運営計画

運営基本方針

「来館者の安全・安心」を第一とし、万博全体及び関西パビリオン等で定められる諸条件を遵守しながら、和歌山県のプレゼンスの向上ひいては県内への誘客促進に寄与することができるよう、来館者に満足いただける展示運営に努めます。

会場運営計画

関西パビリオンを運営する関西広域連合と連携を取りながら、基本方針に基づき、展示案内、警備体制、衛生管理、感染症対策、非常時の避難体制等を考慮した上で、適正な人員配置を検討し、スタッフに対して必要な研修を行うことで、来館者が和歌山の精神文化に心地よく接することができることを目的とし運営計画を策定します。

行・催事(県民参加)運営

団体、企業、市町村などに広く参加を呼びかけ、和歌山県の魅力発信に努める。日本での国際博覧会への参加を通して、自県に対しての誇りや愛着を感じていただけることを目指します。

内容の調整、スケジュール調整・管理、当日のロジスティクスなどを担当する運営事務局の設置を、万博開催前の準備段階も含め検討します。

IV. 万博終了後の事後活用の可能性検討

4-1) 万博終了後のレガシー活用の可能性検討

ハードレガシー

いのち輝く未来社会を実現する前提となるSDGsを考慮し、建材等については可能な限りリース等で対応することによって不必要なハードレガシーの減縮を目指すとともに、環境負荷を軽減するため、ゴミの削減に努めます。また、アート性の高い映像タワーは、県内各施設へ移転・展示し、和歌山の新たな名所として、今後の観光誘客施策等の幅広い活用を検討します。

データレガシー

和歌山ゾーンに来ていただいた方に記入していただくアンケートによる嗜好性や属性情報、WEBで得た情報などを元に、万博終了後もイベントやお得情報などを発信し、和歌山県への観光誘致や地域特産品購買向上を目指します。また、和歌山大学など県内団体との連携のもとデータレガシーの活用方法を検討します。

ソフトレガシー

展示コンセプトである「和歌山百景 — 霊性の大地 —」のもと、「日本の精神文化の源流」「蘇りの聖地」「寛容の精神」の地である和歌山を表現する映像コンテンツ等は、今後の和歌山県の魅力発信に有用なツールであるため、引き続き観光誘客施策の中での活用を検討します。

意識のレガシー

万博というグローバルかつ歴史に刻まれるイベントに対して、関西の一員として、また、和歌山県民として参加することにより、県民が、我がまちに「誇り」を持てるような方法を検討します。特に児童や学生においては、他の文化圏からの来場者と接することにより、多様な価値観に触れ、今後の原体験として記憶に残り続け、未来への希望を持てるような参加を目指します。

V. その他

5-1) 推進スケジュール

大阪・関西万博及び関西広域連合パビリオンの進捗情報をいち早く収集し、各制作の効率化・連携化を図りながら随時業務を効率よく推進します。

項目		年	2023年度（令和5年度）	2024年度（令和6年度）	2025年度（令和7年度）
大阪・関西万博 基本工程			工事		万博開催 2025年4月13(日) ～10月13(月) 184日間
			入場券前売り販売		
関西広域連合 パビリオン建築関係			建築工事	展示工事・外構工事・運営準備	
和歌山 ゾーン	展示		展示設計・製作・工事		
	広報・WEB		計画／情報発信など		
	運営		運営計画策定	マニュアル策定・準備	運営

5-2) 和歌山ゾーンと連携した施策展開イメージ

大阪・関西万博開催前・開催中・開催後それぞれのフェーズに合わせた施策の展開を図っていきます。

開催前

機運醸成

万博成功に向けて、県内各地でのイベントやセミナーの開催、PRブースの設置などにより、機運醸成を図ります。

県内企業・学校等の参加促進

多様な万博への参加方法について、メールマガジン等で情報発信を行い、県内企業や学校等の参加を促進します。

開催中

魅力発信

万博会場内の催事会場や関西パビリオン内の多目的スペースを活用し、県民や県内企業、市町村等の参加のもと、地域の伝統・文化や特色ある産業、食などをアピールするための催事やテーマウィークを開催します。

また、万博会場内だけではなく、県内全域で万博を共に盛り上げていけるよう、市町村等と連携し、イベントやシンポジウムを開催、世界遺産をはじめ豊富な観光資源を活かした体験プログラムを提供します。

開催後

万博レガシー

多様な価値観を尊重し合う「寛容の精神」の地・和歌山の特性を活かし、東京大学先端科学技術研究センターなどと連携し、先端技術と精神性を融合した「知の拠点」形成など、万博プラス1プロジェクトを展開します。

最先端技術・デジタル環境の整備による新たなサービスの実証・導入

- 空飛ぶクルマの県内の環境整備を進め、万博開催期間中の実証運航、万博後の運航の実用化に向けて取り組みます。
- MaaSやメタバース、ワーケーションなどデジタル時代に適応した新たなサービス・ライフスタイルを推進します。

誘客促進・産業の復興

弘法大師御誕生1250年、世界遺産登録20周年をプレ万博として、国内外への積極的なプロモーションを展開し、県内産業の復興に取り組みます。

教育機会の提供

万博会場のみならず県内を教育旅行先として選択されるよう、和歌山ならではの「ほんまもん体験」の磨上げ・魅力発信に取り組みます。

国際交流の創出

県内のグローバル人材の育成や海外の企業・学校等との交流を図るため、市町村と連携し、万博国際交流プログラムに取り組みます。